

箱根山の火山活動解説資料（令和2年10月）

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

4日に、神山付近で地震が一時的に増加しましたが、その後地震の発生は少なく、また、火山活動によるとみられる地殻変動は観測されていません。
ただし、大涌谷周辺の想定火口域では活発な噴気活動が続いていますので、火山灰等の突発的な噴出現象に注意する必要があります。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気などの表面現象の状況（図3～5、図6－①、図7－①）

大涌谷の火口や噴気孔及び温泉供給施設から引き続き噴気が勢いよく噴出しています。大涌谷の噴気の高さは800m以下で経過しており、状況に変化はありません。

宮城野監視カメラ（大涌谷の東北東約3km）による観測では、早雲地獄の噴気の高さは100m以下で経過しており、噴気は少ない状態が続いています。

・ 地震や微動の発生状況（図6－②、図7－②、図8）

4日に、神山付近の深さ約2～4kmを震源とする地震が増加しました。04時48分に発生したマグニチュード2.5の地震では、箱根町湯本等で震度1を観測しました。この地震活動に伴って、噴気活動や地殻変動に変化は認められませんでした。

その後地震の発生は少なく、期間を通して浅い低周波地震や火山性微動は観測されませんでした。

・ 地殻変動の状況（図2、図6－③～⑧、図7－③～⑧、図9）

傾斜計及びGNSS連続観測では、火山活動によるとみられる変化は認められません。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。

次回の火山活動解説資料（令和2年11月分）は令和2年12月8日に発表する予定です。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東京大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、神奈川県温泉地学研究所及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』『数値地図25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平29情使、第798号）。

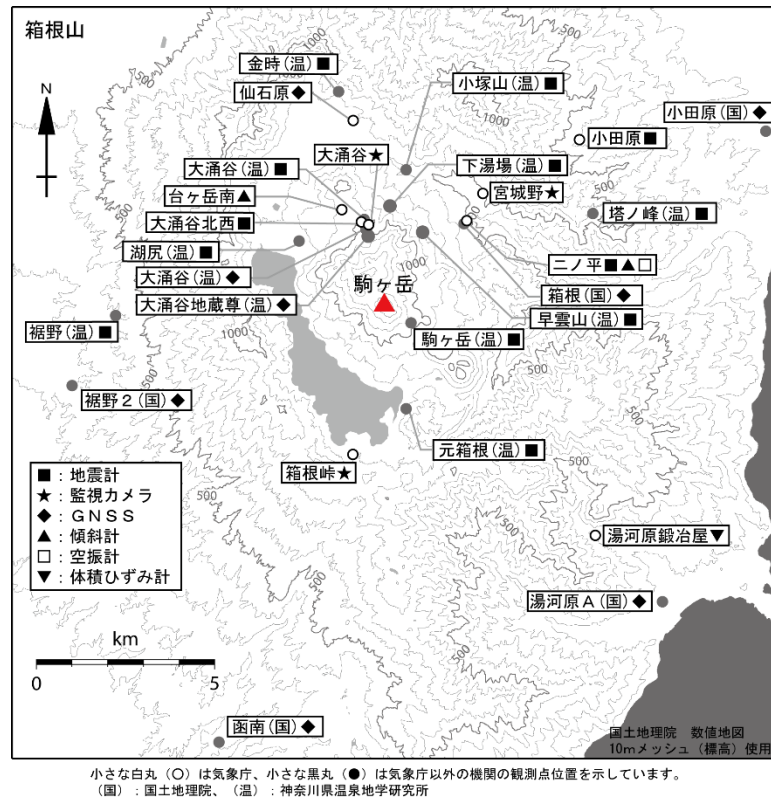


図1 箱根山 観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の観測点を示しています。
（国）：国土地理院、（温）：神奈川県温泉地学研究所

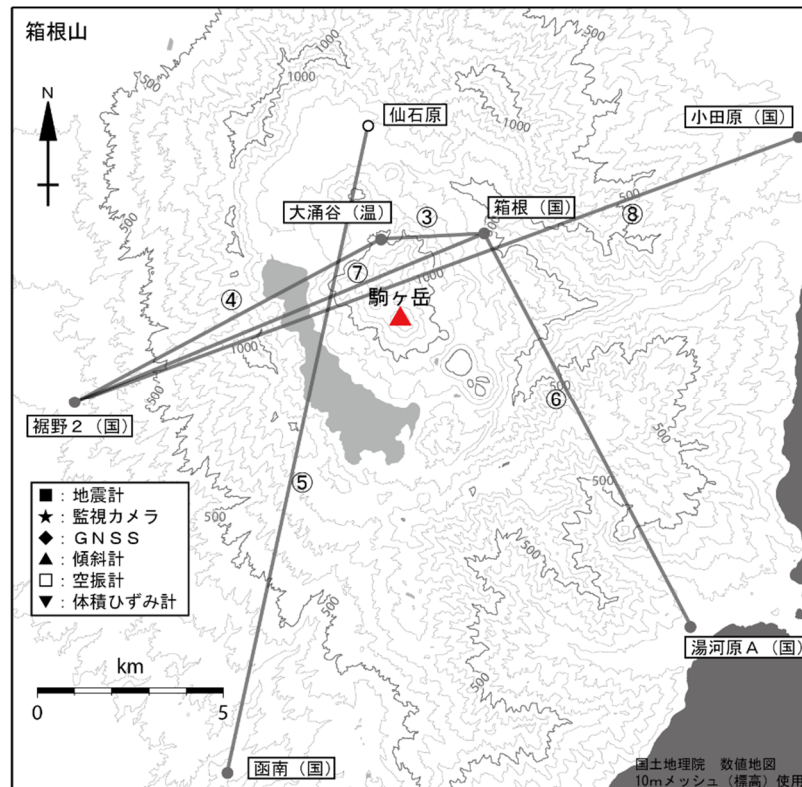


図2 箱根山 GNSS 連続観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の観測点を示しています。
（国）：国土地理院、（温）：神奈川県温泉地学研究所
GNSS 基線③～⑧は図6及び図7の③～⑧に対応しています。

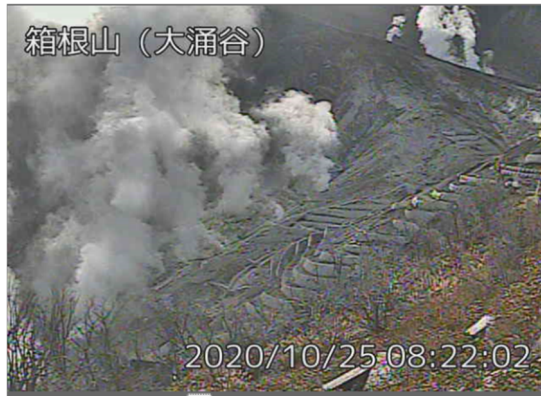


図3 箱根山 大涌谷の状況

(10月25日、大涌谷監視カメラによる)

火口や噴気孔、またその周辺の大涌谷温泉供給施設から引き続き噴気が勢いよく噴出しています。

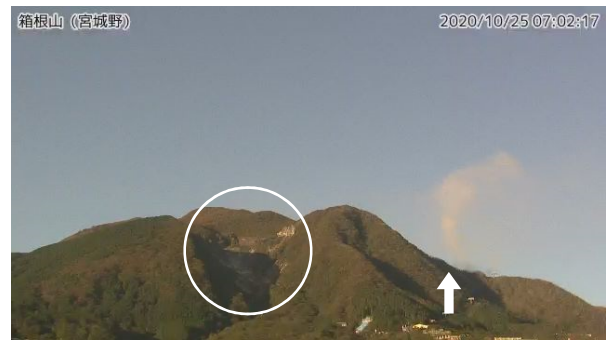


図4 箱根山 早雲地獄の状況

(10月25日、宮城野監視カメラによる)

円内は早雲地獄からの噴気の状況。

宮城野監視カメラでは、大涌谷からの噴気（矢印）は高さ概ね 100m 以上の場合に観測されます。

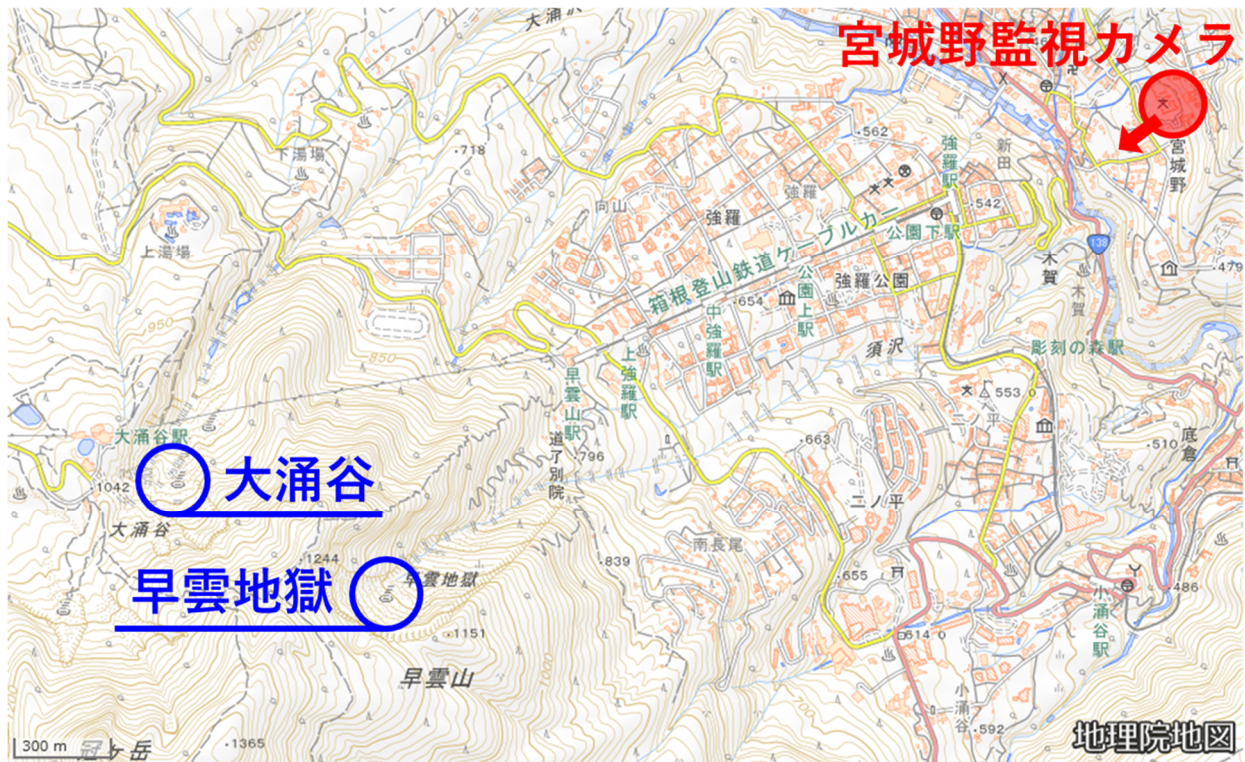


図5 箱根山 噴気場所（大涌谷・早雲地獄）位置図

赤丸及び赤矢印は宮城野監視カメラ設置場所及びその撮影方向

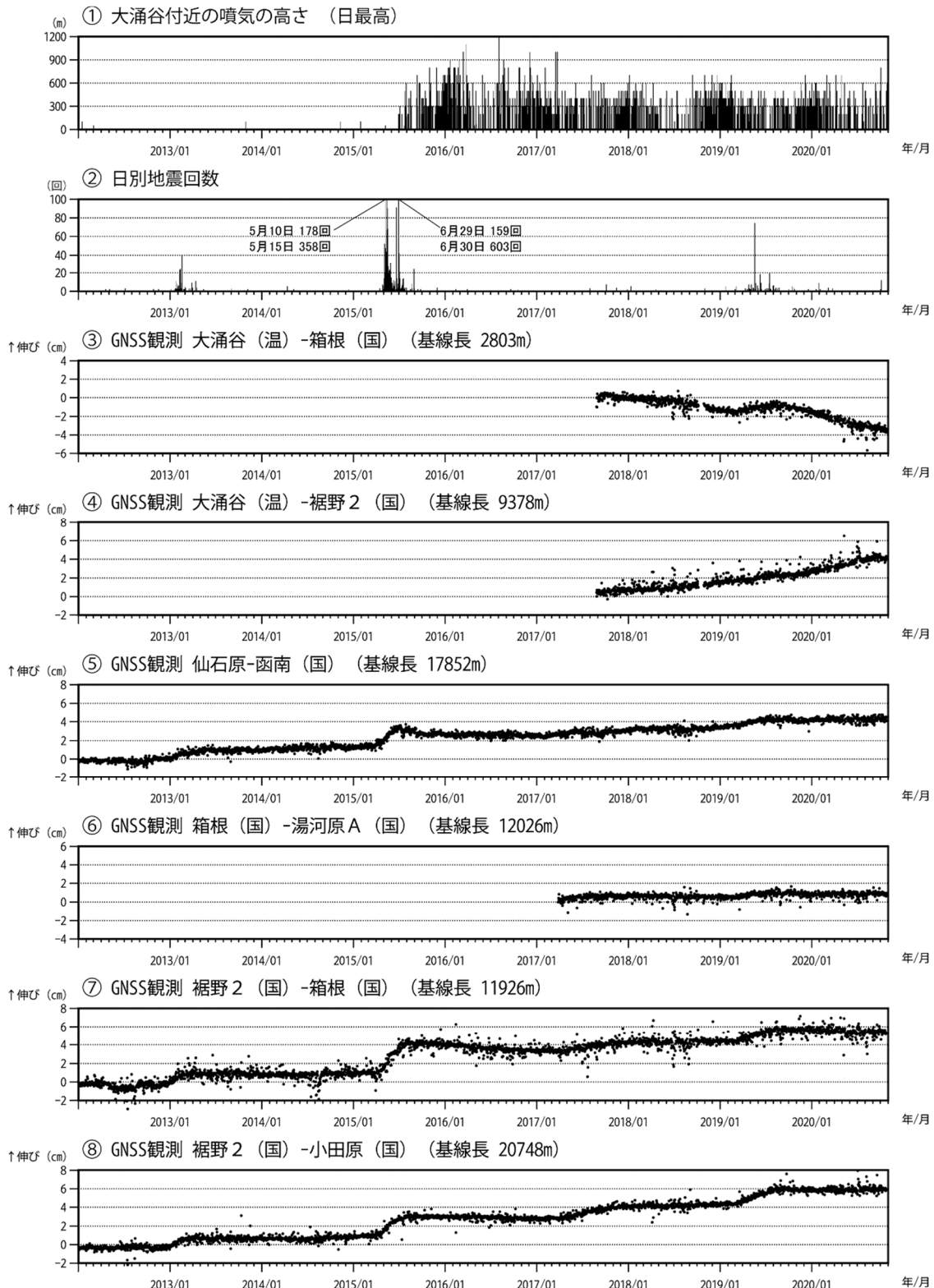


図6 箱根山 火山活動経過図（2012年1月1日～2020年10月31日）

（国）：国土地理院、（温）：神奈川県温泉地学研究所

②2020年11月10日現在、2020年4月18日から10月23日までの地震について、暫定的に震源精査の基準を変更しているため、その前後の期間と比較して微小な地震での震源決定数の変化（増減）が見られます。

2020年9月以降は、地震観測点の標高を考慮する等した新手法で求められた震源をもとに計数しています。

③～⑧は図2のGNSS基線③～⑧に対応。空白部分は欠測を示します。

- ・ 噴気活動に特段の変化は認められません。
- ・ GNSS連続観測では、特段の変化は認められません。

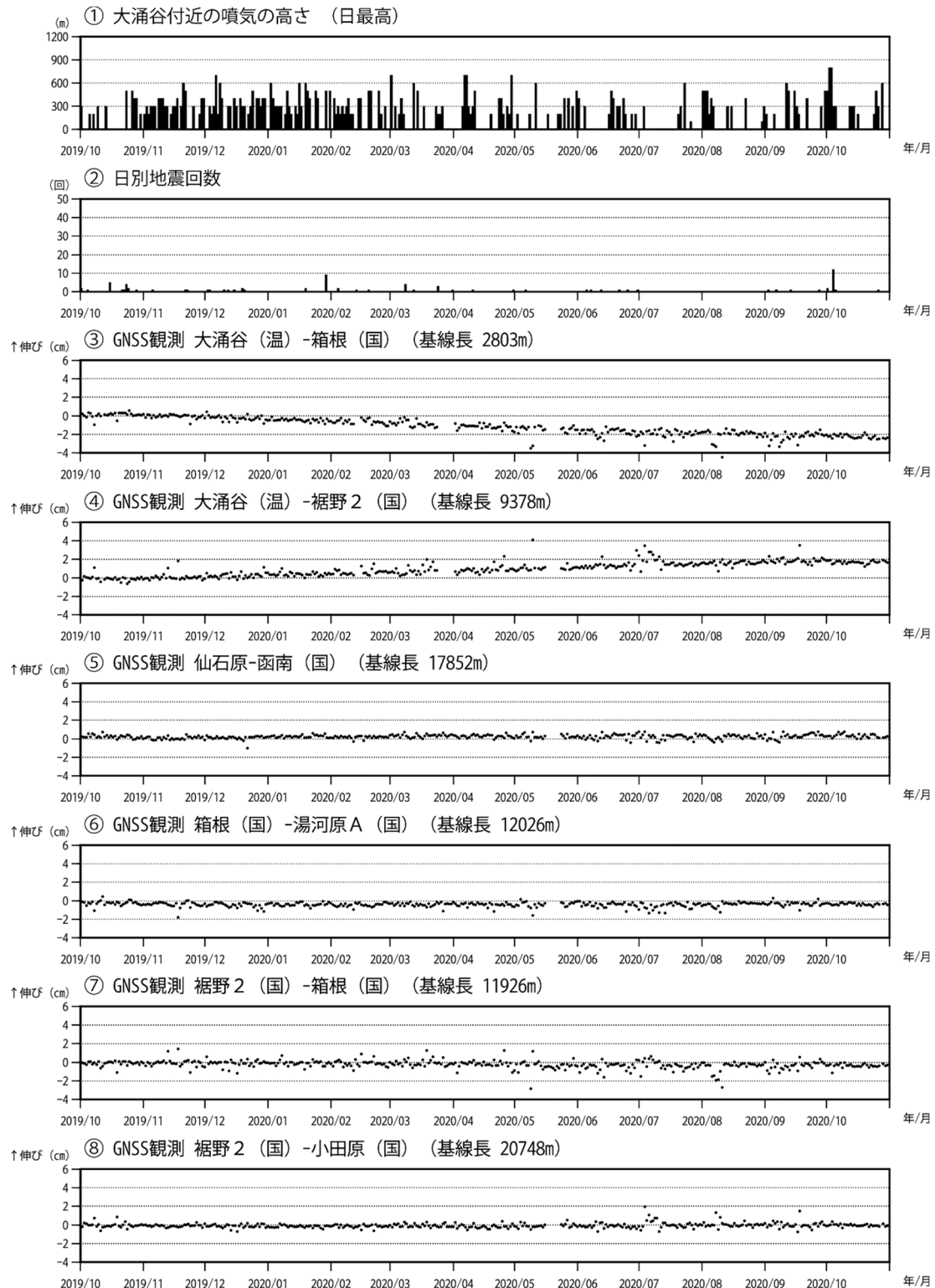


図7 箱根山 火山活動経過図（2019年10月1日～2020年10月31日）

（国）：国土地理院、（温）：神奈川県温泉地学研究所

②2020年11月10日現在、2020年4月18日から10月23日までの地震について、暫定的に震源精査の基準を変更しているため、その前後の期間と比較して微小な地震での震源決定数の変化（増減）が見られます。

2020年9月以降は、地震観測点の標高を考慮する等した新手法で求められた震源をもとに計数しています。

③～⑧は図2のGNSS基線③～⑧に対応。

- ・ 噴気活動に特段の変化は認められません。
- ・ 4日に一時的に地震が増加しましたが、その後地震の発生は少なく、期間を通して浅い低周波地震や火山性微動は観測されませんでした。
- ・ GNSS連続観測では、特段の変化は認められません。

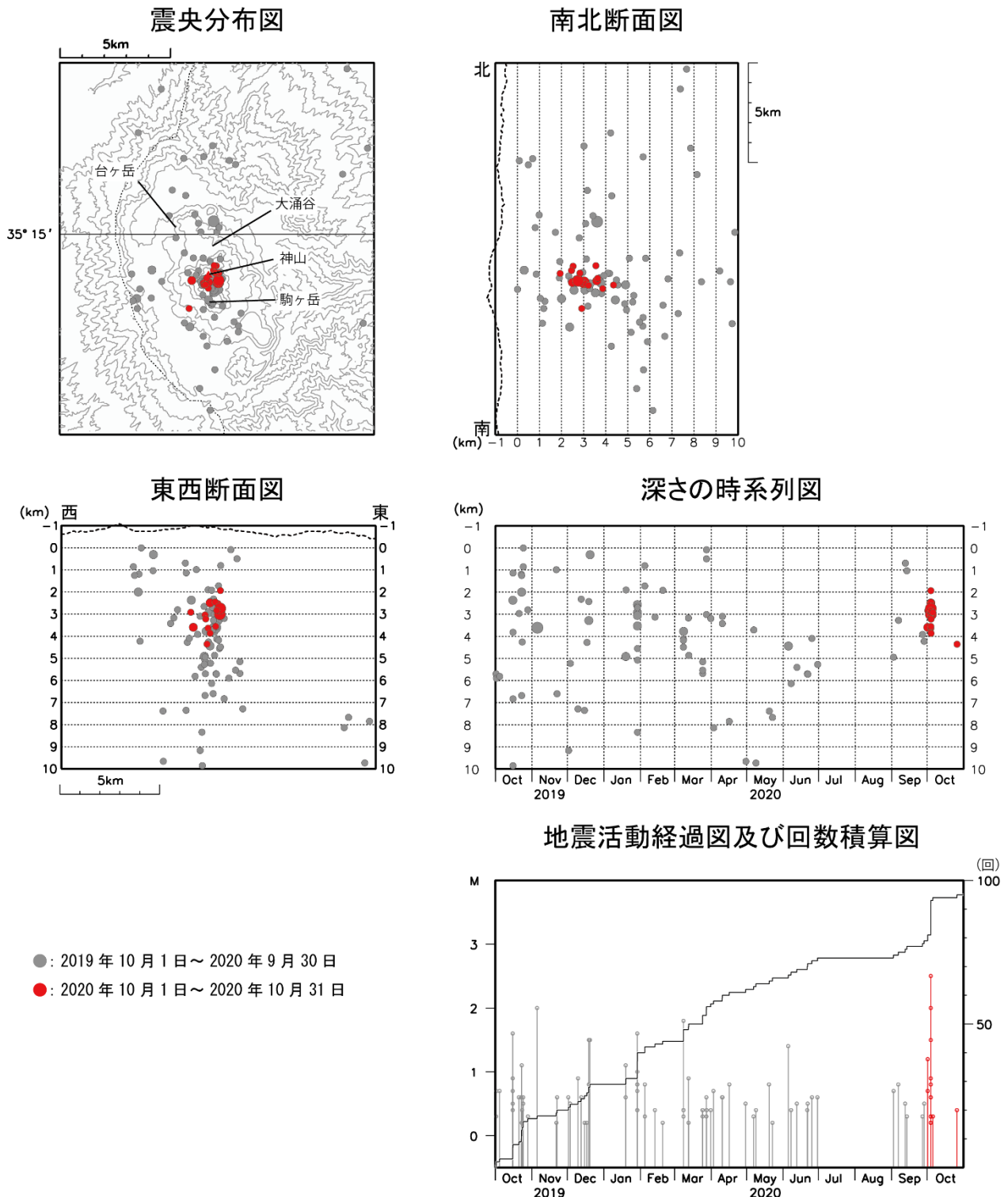


図8 箱根山 広域地震観測網による山体周辺の震源分布図（2019年10月1日～2020年10月31日）

M（マグニチュード）は地震の規模を表し、M0.2以上の地震を表示しています。

広域地震観測網により震源決定したもので、深さは全て海面以下として決定しています。

図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。

2020年11月10日現在、2020年4月18日から10月23日までの地震について、暫定的に震源精査の基準を変更しているため、その前後の期間と比較して微小な地震での震源決定数の変化（増減）が見られます。

2020年9月以降の震源は、地震観測点の標高を考慮する等した新手法で求められています。

- ・4日に一時的に神山付近の深さ約2～4kmを震源とする地震が増加しましたが、その後地震の発生は少なく、期間を通して浅い低周波地震や火山性微動は観測されませんでした。

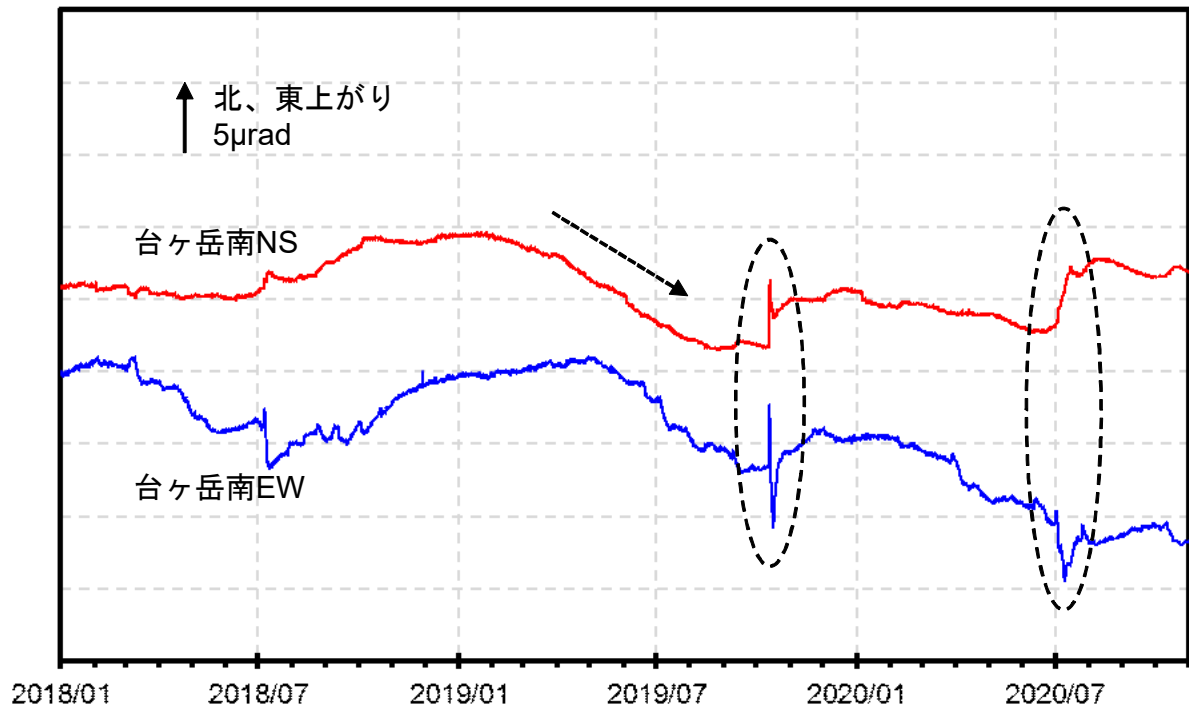


図9 箱根山 台ヶ岳南観測点における傾斜データ（2018年1月1日～2020年10月31日）
破線で囲んだ部分は降水による影響と考えられる変動を示す。

- ・2019年3月中旬頃から認められていた大涌谷方向が隆起する変化（黒矢印）は、2019年9月には停滞し、2019年3月上旬以前の状態に戻りました。その後、火山活動によるとみられる変化は認められません。